

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版、名古屋建築 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2014(v.1.22)
 物環境配慮制度運用マニュアル2014

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中村区日ノ宮町計画	階数	地上6F
建設地	名古屋市中村区日ノ宮町二丁目14	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域、準防火	平均居住人員	163 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2016年7月 予定	評価の実施日	2015年10月1日
敷地面積	1,648 m ²	作成者	
建築面積	686 m ²	確認日	2015年10月2日
延床面積	3,539 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.1

☆: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項

総合	その他
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 外壁をベージュ色とし、周辺建物溶け込むことを意識した。	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 各住戸とも南側に大きな開口を設けて、十分な採光と換気を確保。また、科学汚染物質の発生しない建材をほぼ全面	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 棟内LANを構築し、通信手段の多様化に対応可能な配慮を行った。
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 高効率型給湯器、節湯型水栓を採用し、省エネに配慮した。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 フロン・ハロンを使用しないことで、環境に配慮した。
	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 出入口に防犯カメラを設置し、柵等により、建物内に容易に侵入できないように配慮した。
	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 適切な自転車置場を設置し、歩車分離を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される